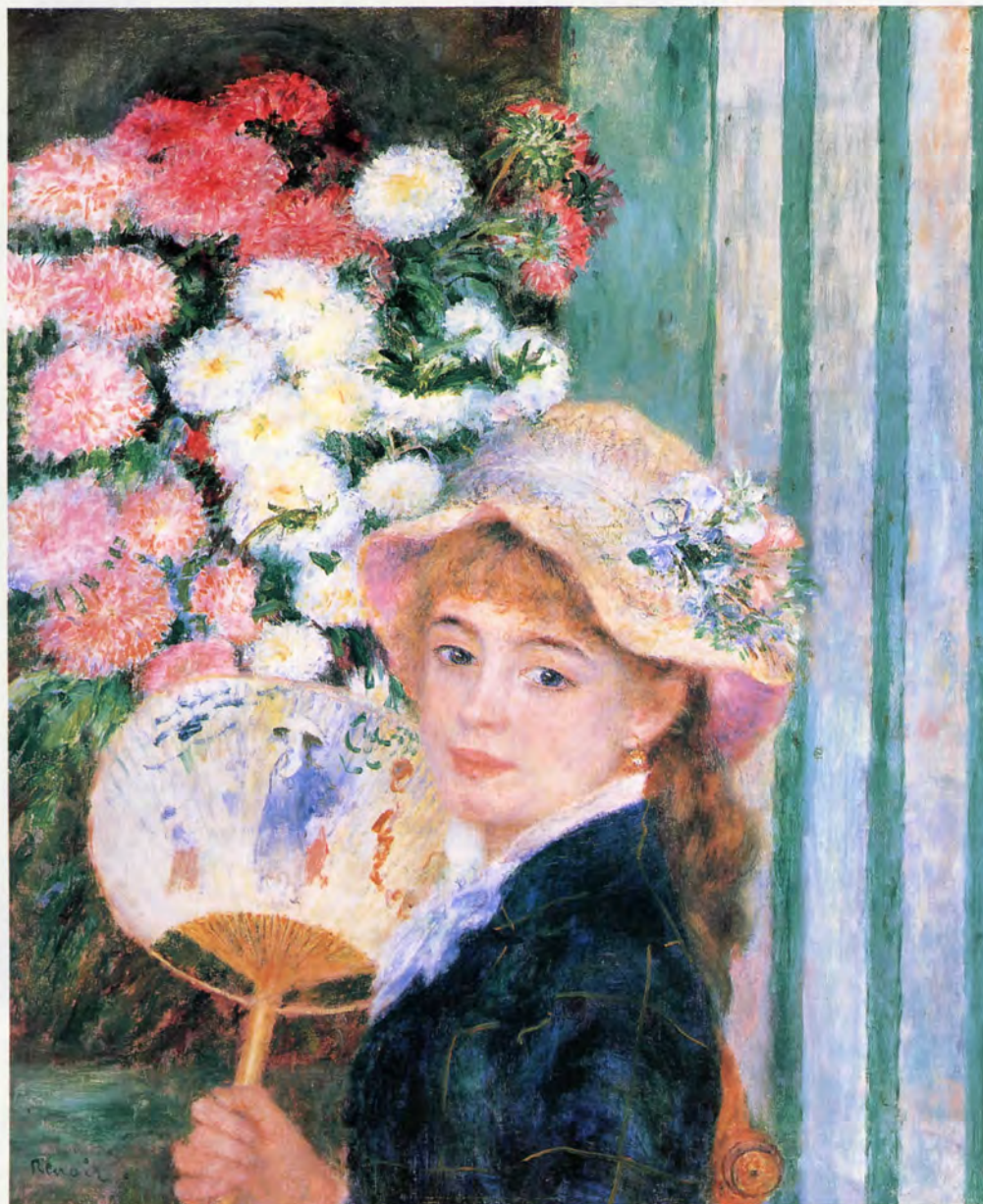


Paris à la Belle Epoque



スターリング&フランシーヌ・クラーク・アート・インスティテュート

オーギュスト・ルノワール「団扇を持つ少女」1881年頃

名画でつづるパリの詩とロマン

ベル・エポックのパリ展

1992年11月20日(金)~12月23日(水) 高松市美術館

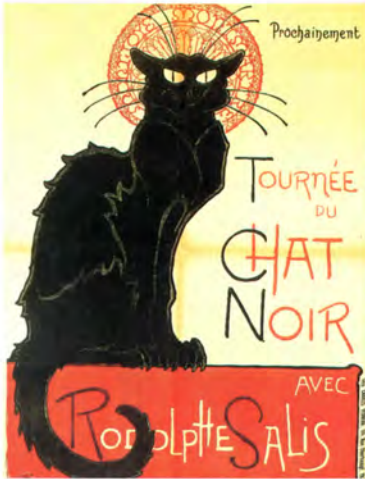
午前9時~午後5時まで(入館は4時30分まで) 初日は午前10時開展
毎週金曜日は午後7時まで(入館は6時30分まで)
毎週月曜日休館(但し、休日と重なる場合はその翌日)

高松市紺屋町10-4 Phone 23-1711

入場料=一般900円/高・大生600円/小・中生300円 (前売り・団体<20名様以上>は2割引)

主催=高松市美術館・読売新聞大阪本社・西日本放送 後援=文化庁・フランス大使館 協力=日本航空

名画でつづるパリの詩とロマン ベル・エポックのパリ展



テオフィール・アレクサンドル・スタラン 「シャノワール」のポスター 1896年



アンリ・トカール・ズエロートレック 「ディヴァン・ジャポネ」のジャンヌ・アヴリル 1892年



ジュール・ユスティン 「馬に乗る人と引き馬、アヴニュー・ザウラー」 1850年



ジャン・ベノイ 「夜会」 1878年

19世紀末から20世紀初頭、普仏戦争後から第一次世界大戦勃発までの戦争のない平和で活気のある時代を、古き良き時代「ベル・エポック」と呼び、パリには万国博覧会の開催やエッフェル塔の建設に象徴されるように産業、芸術、ファッションなどあらゆる面に新しい気運がみなぎっていました。特に芸術の世界では、印象派以降世紀末芸術としてのアールヌーヴォーから、20世紀美術へと新しい運動が展開されようとしていました。

本展は、この時代に開花した様々な絵画を、パリの情景を彷彿させるシーンを中心に55作家の作品97点を展覧し、「モダン・パリ」のエスプリを感じとっていただくものです。



エドゥアール・ヴワスキー 「フランシュ広場とムーランルージュへの印象」 1902年



モーリス・ストロッドル 「乗合馬車にて」 1885年頃

Paris à la Belle Epoque

〈講演会〉

「ベル・エポックのパリ」

講師/島田紀夫(実践女子大学教授)

日時/11月29日(日) PM1:30～

高松市美術館1F講堂

先着200名様・入場無料

〈次回の展覧会〉

香川県美術家協会
創立25周年記念展

1993年1月12日(火)→1月17日(日)